**『ここに書籍タイトル**

**―サブタイトルは改行して中央揃え―』**

書籍の著者名　名字 名前

紹介者名　名字 名前

所属機関名

**1. はじめに**

　これは外国語教育メディア学会関東支部紀要（LET Kanto Journal）に投稿する論文作成に必要な情報を記載したテンプレートである。投稿者は，原稿の種別（研究論文，実践報告，研究ノートの別）にかかわらず，このテンプレートに従い執筆することが求められている。

**2. 書式**

**2.1 タイトルページの書き方**

　タイトル，氏名，所属を記入する際の文字サイズ，フォント，記入位置等はすべてこのテンプレートに従うこと。なお，著者が複数いる場合は，1人目の後，1行スペースを空けて氏名と所属を記入する。また，200語以内の英文の要約を付ける。要約のあとは1行空けてKeywords（5つ以内）を英語で記入する。

**2.2 本文の書式**

　本文の太字，余白，文字フォント，見出し番号の付け方，インデントなど，すべての設定をこのテンプレートに従い変更しないこと。

**2.2.1 文字フォント，ポイント，行数**

　使用する書体は，原則として和文の場合「明朝体」，英文の場合「Times New Roman」とする。文字の大きさは和文の場合10.5ポイント，英文の場合12ポイントとし，1ページの行数を35行とする。和文の場合は1行40字とする。原稿は30枚以内とする。

　日本語の句読点は，「，」と「。」にする。英数字には半角を使用し，全角は原則として使用しない。

**2.2.2 見出し番号の書き方**

　見出しのレベルは3段階とし，一番大きなレベルの見出しのあとにはピリオドを入れる（例：1. はじめに）。次のレベル以下の最後の数字のあとにはピリオドは入れない（例：2.1 タイトルページの書き方，　例：2.2.1　文字，ポイント，行数）。見出し番号のあとには半角2文字分（全角1文字分）のスペースを入れる。文字の大きさは，見出し番号は12ポイント，見出しは10.5ポイントとし，全体を太字にする。各見出しの前は，1行スペースを空ける。ただし，見出しが重なる場合にはスペースを入れない。（本ページ上部「2. 書式」と「2.1 タイトルページの書き方」の間にスペースがないことに注意。）図や表がセクションの最後に入った場合は，2行スペースを空ける。

**2.3 その他**

**2.3.1 引用方法**

　本文中での引用方法はAPAに基づく。和文の場合は前後の括弧を全角（）で記載する。英文の場合はすべて半角括弧 () となる。例えばこの１文が引用されたものだとすると，表記は次のようになる（白井, 2008; 高橋, 2003）。括弧内はアルファベット順で記載する。著者が2名以上の場合は，鈴木・岡島（2013）というように，間を中黒・で区切る。

**2.3.2 表と図**

　表は本文中に入れ，通し番号をつける。表Xで1行取り，次の行に表のタイトルを記述する。

表1

テストと検定の結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| テスト | グループAa  | グループBa  | グループCa  | *F* | *P* |
| リスニング | 59.13 (9.76) | 57.21 (7.61) | 53.77 (7.46) | 4.39 | .02 |
| スピーキング | 64.33 (14.54) | 57.17 (13.61) | 53.61 (19.81) | 4.53 | .01 |

*Note*. a*n* = 40; Mean (*SD*)

# 図は本文中に入れ，通し番号をつける。キャプションは図の上に付し，図の幅に対して左寄せにして配置する。英文は *Figure 1.* の部分だけイタリックにするが，和文ではイタリックにしない。英文（APA）では，図のキャプションはセンテンスを使うため，文末はピリオドを使うが，和文では句読点は用いない。図や写真は色をつけないようにする。グラフの中の背景も色をつけない。また，軸についている数字や文字も見やすい大きさにそろえておく。図の前後は1行あける。図の後に次のセクションが続く場合は，2行スペースを入れる。

なお，図表を他の文献資料から転載する場合，転載許可の要不要を確認すること。転載許可が必要な場合は，投稿までに，著者の責任において，許可を得ておくこと。

図1

平均得点の推移

**2.3.3 おわりに**

　このテンプレートには，書式について留意しなければならない事項がすべて盛り込まれている。投稿者が原稿を作成する場合には，必ず使用することが求められる。

**注**

1. 注は脚注を用いずに，本文の末尾にまとめて記載する。

2. 本文中では「注釈のつけ方の例1」というように右肩上付で注をつける。

**参考文献**

Breiman, L. (2001). Random forests. *Machine Learning*, *45*(1), 5–32.

https://doi.org/10.1023/A:1010933404324

　 巻はイタリック，号はカッコ内。複数号ある場合，この情報は必ず記載する。書名・論文名の大文字は冒頭のみ。雑誌名は単語ごとに語頭を大文字にする。

Campbell, D. T., & Kenny, D. A. (1999). *A primer on regression artifacts*. Guilford Press.　著者が複数の場合に，&の前にカンマを忘れない。書名は冒頭とコロンの後のみ大文字とし，斜字体で記載する。

Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences* (2nd ed.). Lawrence Erlbaum. 版は括弧にいれる。

Ellis, R. (1994). *The study of second language acquisition.* ~~Oxford:~~ Oxford University Press.

　 出版地名は載せない。

Haybron, D. M. (2008). Philosophy and the science of subjective well-being. In M. Eid & R. J. Larsen (Eds.), *The science of subjective well-being* (pp. 17–43). Guilford Press.　筆者名は「姓＋名イニシャル」だが，編著者名は「名イニシャル＋姓」の順序になる。編者が複数名の時には，(Eds.)とする。編者が2名の時は，&の前にカンマをつけない。書名の後は，半角スペースを挟んで，ページ数を入れてからピリオドをつける。

水本篤・竹内理 (2008).「研究論文における効果量報告のために―基礎的概念と注意点―」『英語教育研究』*31*, 57–66.

長沼君主・小泉仁 (2012).「小中連携における小学校英語活動に関する小中教員意識差」*ARCLE Review,* *6*, 22–32.

白井恭弘 (2008).『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か』岩波書店.

Sillick, T. J., & Schutte, N. S. (2006). Emotional intelligence and self-esteem mediate between perceived early parental love and adult happiness. *E-Journal of Applied Psychology, 2,*38–48. ~~Retrieved from~~ http://ojs.lib.swin.edu.au/index.php/ejap

Swain, M. (2005). The output hypothesis: Theory and research. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning* (pp. 471–483). Lawrence Erlbaum.

* 参考文献は英文・和文ともに著者名のアルファベット順で掲載する。
* ジャーナルのページ数引用はハイフン（-）ではなく，en dashダッシュ（–）を使う。
* DOI（Digital Object Identifier）がインターネットで調べてわかるものについては記載するが，わからなければ書かなくても構わない。DOIの説明についてはこのサイトを参照（http://www.doi.org/）。